

## 研究・事業名

COVID-19流行による医療崩壊を防ぐ

## 研究・事業実施期間

令和2年4月1日～令和5年3月31日

## 交付決定額

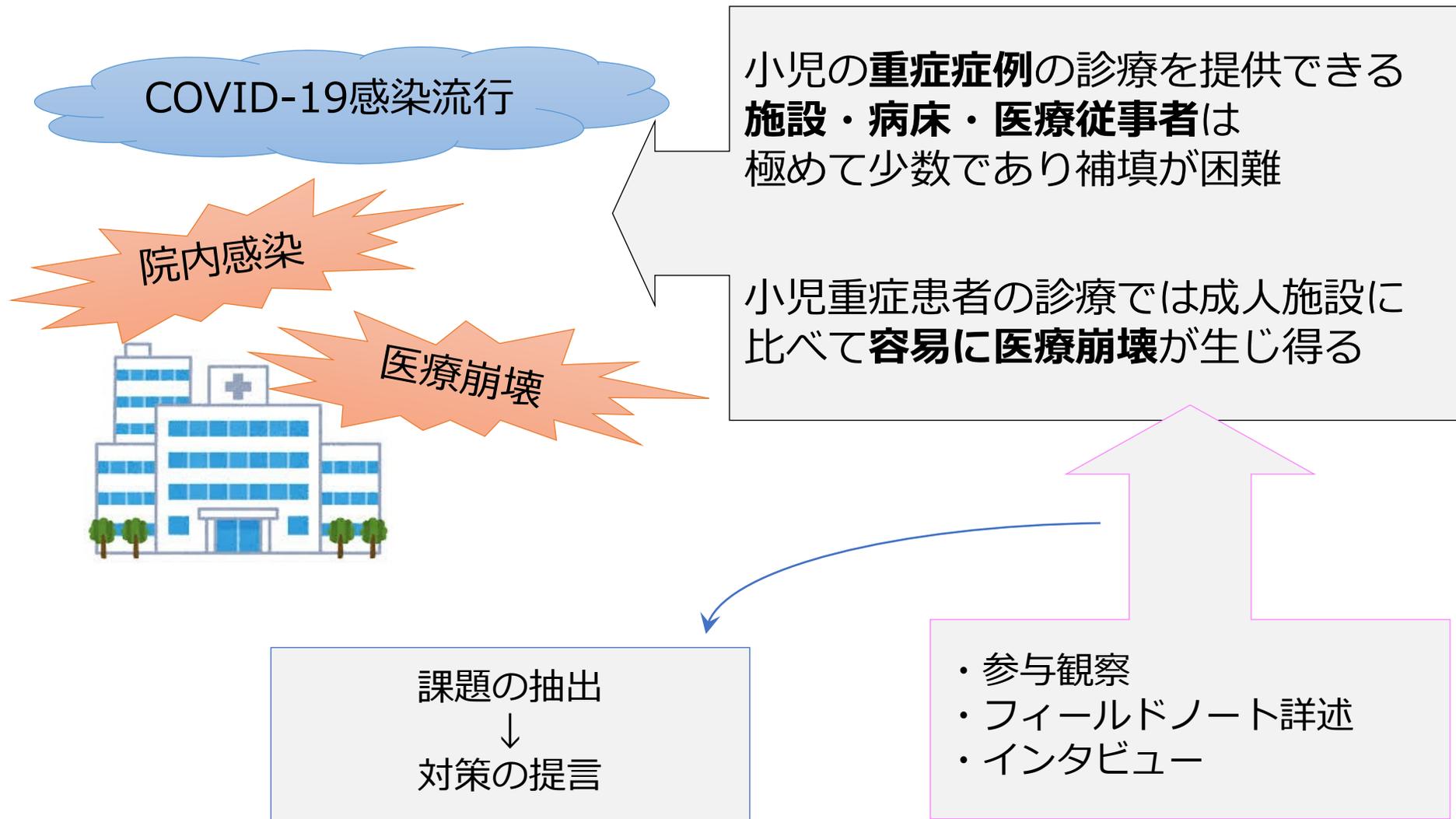
2,500,000円

(企業・法人名) 兵庫県立こども病院

染谷真紀

# 1. 研究・事業の概要（イメージ図）

本研究の目的は、小児専門医療施設である兵庫県立こども病院、特に重症診療を担う小児集中治療科において、COVID-19感染症流行下で院内感染・医療崩壊を予防することである。



## 2. 研究・事業の内容

### 研究の目的及び意義

- ・ 当施設での医療崩壊を予防すること→重症小児の診療を維持へつながる
- ・ 院内感染・医療崩壊を防ぐための対策や課題を示すこと

### 研究の方法及び手段

#### 質的研究

エスノグラフィー、フィールドノート記述

参与観察 (participant observation)

Key informant interview

半構造化インタビュー (semi-structured interview)

### 研究の特徴(新規性、独自性等)

- ・ 質的研究の手法を用いることで、感染患者数、重症感染患者数、だけでは表せない領域の記述、分析が可能
- ・ 医学教育学、医療文化人類学、小児集中治療科医、感染症科医との共同により、現場のよりリアルな声の拾いあげが可能、文化人類学・医学教育学的分析が可能

### 3. 目的達成状況

1) 診療現場におけるエスノグラフィー記録

→ エスノグラフィー記録（参与観察、フィールドノート、半構造化インタビュー）を実施済

2) エスノグラフィー記録を元に問題点・改善点を抽出

→ 1)のエスノグラフィー記録から複数の課題・問題点を抽出済

3) 全体のエスノグラフィーの逐語録のまとめ

→ 1)の記録を全て文字起こしし、逐語録として記録済

4) まとめたエスノグラフィーの分析

→ 1)2)の課題・問題点抽出から、さらに全体にわたるテーマが抽出された。

2022年1月以降にCOVID-19の小児患者への大きな流行が認められたため、追加の記録が必要と判断し、記録、分析が予定よりも遅れた。

5) 研究結果の発表、論文作成

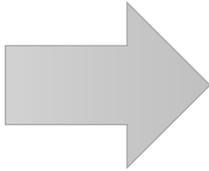
→ 4)の如く予定よりも遅延が認められたが、分析を進めながら並行して、論文の作成中である。

今年度内の学術発表を目指している。

## 4. 研究・事業により期待される効果／神戸医療産業都市の発展に与える効果

本研究における参与観察、フィールドノートの記述を元にしたエスノグラフィ記録から複数の問題点、課題が抽出された。

これらの問題点、課題に共通し、さらに、個人、部署、施設、施設間のいずれにも共通して認められる課題テーマが抽出された。



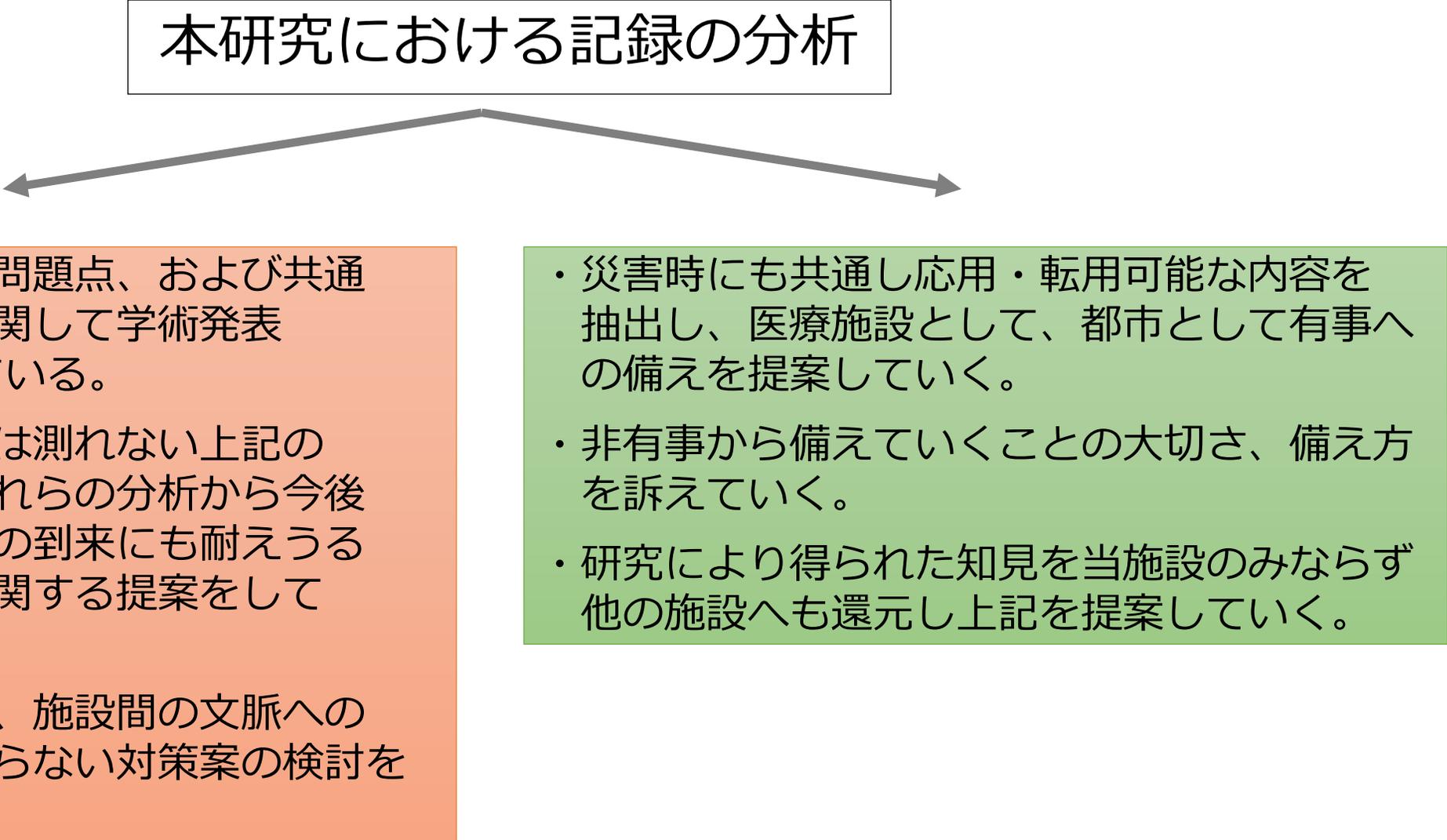
### 新興感染症、災害への備えの提案

今後起こりうる新興感染症への対策、医療崩壊を予防しうる医療体制、支援の検討、作成、提案。医療のfieldだけでなく、災害時への備えにも転用し、非有事の際から有事に備えた体制づくり。

COVID-19への取り組みは、他の新興感染症流行時や災害時にも通ずるものであり、課題の抽出、およびそれらへの対策や課題を示すことは、今後、新たな感染症流行時や災害時において、小児専門施設のみならず、医療施設が院内感染予防・医療崩壊予防を検討する際に非常に有用となると考える。

## 5. 今後の展開

### 本研究における記録の分析



- 抽出された課題・問題点、および共通する課題テーマに関して学術発表（論文化）を進めている。
- 重症度、患者数では測れない上記の課題を提示し、これらの分析から今後新たな新興感染症の到来にも耐えうる医療体制づくりに関する提案をしていく。
- 個人、部署、施設、施設間の文脈への依存性の高低によらない対策案の検討を進めていく。

- 災害時にも共通し応用・転用可能な内容を抽出し、医療施設として、都市として有事への備えを提案していく。
- 非有事から備えていくことの大切さ、備え方を訴えていく。
- 研究により得られた知見を当施設のみならず他の施設へも還元し上記を提案していく。